



新岡山市民病院だより vol.1

Kitanagase Wind
2014.10

北長瀬の風

平成27年
5月7日
開院!
(予定)

北長瀬の地に
新岡山市民病院が
誕生します!

目次 CONTENTS

- 2 理事長あいさつ
新しく生まれ変わる市民病院をご紹介します。
- 4 新病院の設計コンセプト 配置計画・平面計画から
- 9 新設医療機器紹介／診療科案内
- 10 診療科紹介 ●岡山ER ●産婦人科



新しく
生まれ変わる
市民病院を
ご紹介します。

市民病院は、その名前の通り「市民のための病院」です。ですから、この新生・岡山市市民病院がどのような考えをベースに作られたのか、また最新の診療内容や環境、病院の機能をぜひ市民のみなさんにお伝えしたくて、「新・岡山市市民病院だより 北長瀬の風」を発行することになりました。岡山市民の「マイ・ホスピタル」として、市民と当院のスタッフが一緒になって病院づくりを行い、よりよい病院に育つように、これから次々と新しい風を取り込んでいきたい。そして、北長瀬の地から情報発信・地域連携という新風を巻き起していきたいと考えています。

「こんな病院あったらいいな!」が原点

新病院を計画するにあたり、何よりも重視したのがスタッフの意見です。医師をはじめ、看護師、助産師、技師、薬剤師、栄養士、リハビリや事務スタッフなどに対して、「自分が患者だったらこうして欲しい」「こんな病院があったらいいな」という意見やアイデアをどんどん出してほしいと要望することから始めました。うれしいことに本当に多くの意見・アイデアが集まり、それを反映させるべく何度もミーティングを重ねて配置計画・設計計画を練り上げていきました。新病院では、外来を2階に配置していますが、これはJR北長瀬駅の2階の改札を出てから、そのままアクセスできるように考えたもので、階段を昇り降りする必要がありません。しかも駅から病院までの通路は雨に濡れずにすむように屋根付きにしました。アクセス方法一つとっても、来院される方の身になって考えたことを実現しています。この他にも、ベッドサイドの棚の高さ、コンセントの位置、除菌・洗浄機能ノズルが付いた温水洗浄便座の採用など、細かな

市民のためにある病院だから、 市民にとって最高の病院を作ろう！

理事長・院長 松本健五

ところにも意見を反映。建築に3年もの期間がかかりましたが、患者さん目線の意見を多数取り入れ、「市民にとって最高の病院づくり」への第一歩を踏み出すことができたと自信を持っています。

政令市の市民病院として必要なこと

新生・市民病院は、「天瀬の市民病院」のバトンを受け継ぐ「政令市の市民病院」に生まれ変わることを意味しています。70万人の市民にとって必要な病院とは何か？それが新病院の重要な柱となっています。その柱が「救急」「教育」「災害対応」、そして優れた他の医療機関と役割分担を行い、地域医療のネットワークを築くことです。この役目を真正面から着実に果たしていくことが私たちの使命であると考え、実現に向けて必要とされる最新の機能や施設を完備。さらには快適な環境づくりにも力を入れました。新生・市民病院の特筆すべきポイントを右に簡単にご紹介したいと思います。



市民の健康と安心を守るために

このように病院は一新しますが、市民のみなさんが親しみを持って来院され、気軽に声をかけていただけるアットホームな雰囲気は、しっかりと受け継いでいきます。市民の健康と安心を守る「皆となる病院」として市民のみなさんから認められるように、また、地域医療ネットワークの確立に貢献し、コーディネート役として他の医療機関から信頼いただけるように、スタッフ一同、より一層の努力を続けていきます。開院後こそが、私たちの本当のスタートです。

新生・市民病院のポイント

●岡山ERの創設

従来から取り組んできた“ことわらない救急”をさらに発展させ、1400㎡の広さを有する日本で最大規模の救急医療（ER）体制を作りました。24時間365日、すべての救急患者さんを受け入れて初期診療を提供します。これまでにない、まったく新しいERを作りたいという私たちの思いに賛同してくれた救急医や看護師たちが全国から集結。救急医を中心に3交替制で診療を行い、患者さんの状態に応じて各専門科または岡大・日赤などの他の医療機関、かかりつけ医に引き継ぐ体制を整えているので、安心して受診いただけます。

●安心・安全・快適な産婦人科

産婦人科医をはじめ、経験豊かな助産師、救急医や麻酔科医もサポートします。お母さんの立場で行う助産師外来や産後ケア入院、快適に過ごしていただくために、院内レストランで作る特別メニュー、アロマテラピーなども用意しています。

●専門医療のセンター化

専門的なチーム医療を提供するために、臓器別・疾患別のセンター化を採用しました。なかでも、よりレベルアップするのが脳疾患への対応です。脳血管内治療の専門医が2名（うち1名が指導医）、脳卒中リハビリテーション認定看護師が2名在籍し、神経内科医や精神科医も合流。5～6名の脳神経外科医が24時間体制で手術・治療に当たります。

●ワンストップサービスの提供

予防、診療から介護までの総合相談や情報提供がワンストップで受けられるように、入退院センターと岡山市の地域ケア総合推進センターを設置します。保健・医療・福祉がスムーズに連携できるように市民病院がコーディネート。市の制度などを知らずに損をしている方もいらっしゃるので、“賢い病院のかかり方”もお伝えします。



新病院の設計コンセプト

新しい市民病院の特徴は？ アクセスの方法から機能・施設のことまで詳しく聞きました！



お話をうかがった
新病院整備推進課 齊近課長

新病院は、救急医療（岡山ER）と保健・医療・福祉の連携に重点を置いた“岡山市立総合医療センター”として計画され、市民の方がいつでも安心・安全に医療が受けられる病院をめざして設計されています。なかでも、敷地内に病院をどのように配置するかを考えるにあたり、何よりも優先したのが利用される方のアクセスです。公共交通機関を利用される方が楽に来られるように、JR北長瀬駅寄りに病院を配置。車での来院には、病院の西側に約450台の立体駐車場と27台の地上駐車場を設けて、駐車スペースを十分に確保しました。さらに、駅からも駐車場からも最短で来ていただくことを考えて、あえて病院に正面玄関は作らず、東西2カ所のダブルエントランス式にして連絡通路のある2階を外来に。また、外来のピーク時に駐車待ちの車による周辺への渋滞を防ぐために、南側の出入り口から立体駐車場ま

での距離を十分に確保し、一般車、救急車、業務サービス車別に専用の出入り口を設けて、動線の交差を避ける工夫もしています。

病院の機能・施設については、入院前から退院後もサポートを行う窓口として、地域ケア総合推進センターを設置して、同じ病院内で必要なサービスを提供する体制を整えました。多くの方が利用される外来は、診察と検査と支払いが同じ階だけで済むように集約化。病棟は、「入院患者さんとの距離を近くしたい」という医師や看護師の意見を取り入れ、スタッフステーションからすべての病室が見渡せる構造を採用しています。その他にもERの機能、災害時の安全性の確保など、各階ごとに特徴を取り上げていますので、ぜひこの後のページをご覧ください。

受診される方にとって必要なことは何か。そして医療サービスの提供しやすさ、スタッフの働きやすさに至るまで、可能な限り現場の声を聞き、真剣に考え抜いて計画したこの結果に、「利用しやすい病院になった」と実感していただくことができますことを心より願っています。



NEW HOSPITAL DESIGN

配置 計画

JR北長瀬駅やバス停のある駅前広場に隣接する立地の良さを最大限活かして病院を配置しました。**駅と病院をペDESTリアンデッキ（歩行者専用的高架通路）で結び、**改札を出てから病院2階の外来へは最短でお越しいただけるようになっています。また、敷地内には広場や緑を設け、「都市の森」にふさわしい環境も整えました。

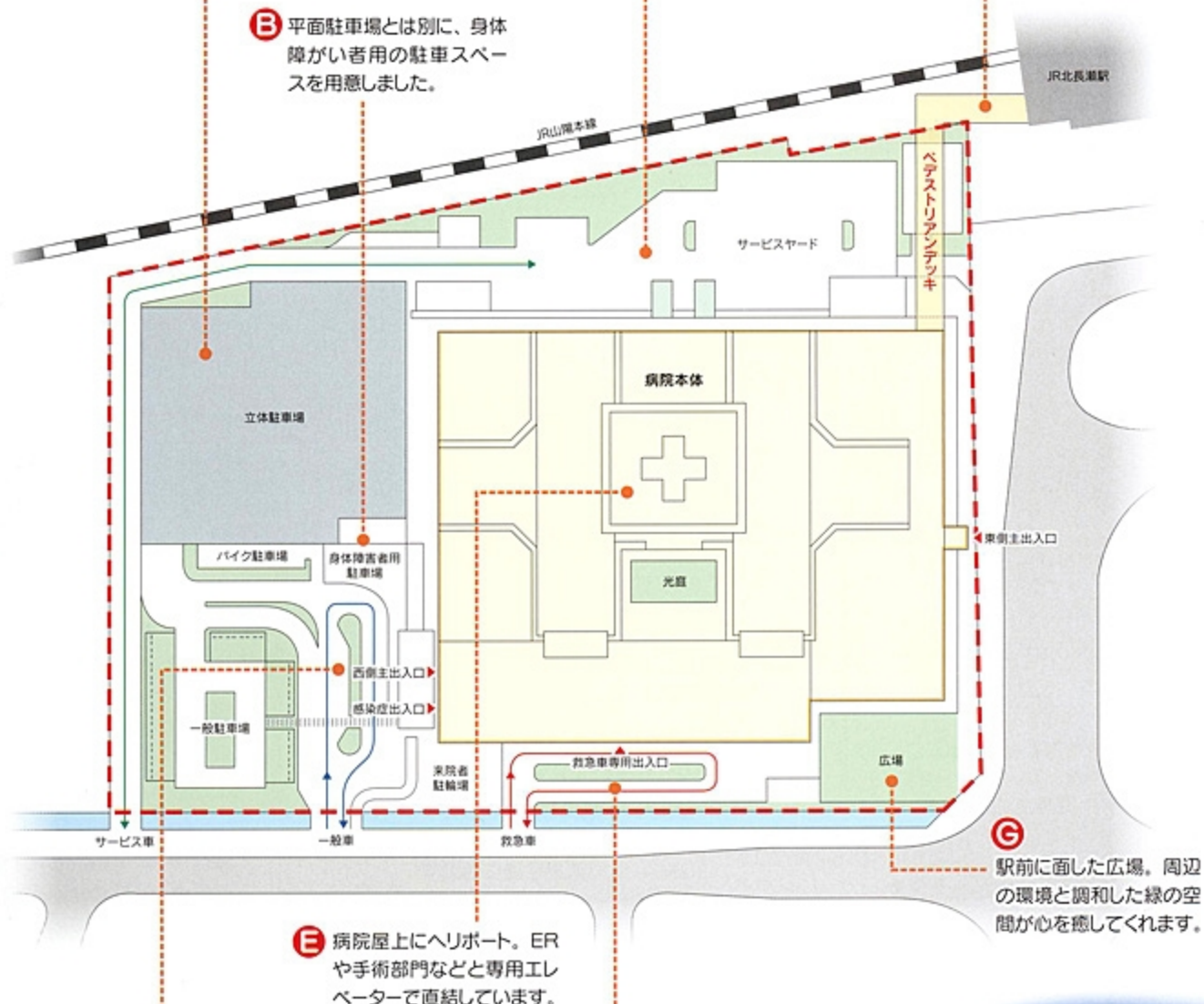


A 5層6段の立体駐車場。約450台の車が駐車できます。2階から連絡通路で外来へ。

業務サービス車専用の駐車場約40台分を設けたサービスヤードを北側に。

C 2階の東出入口はJR北長瀬駅とペDESTリアンデッキで結ばれ、雨の日も傘を差す必要がありません。

B 平面駐車場とは別に、身体障がい者用の駐車スペースを用意しました。



D 西出入口は、時間外出入口を兼ね、24時間365日いつでも開いています。

E 病院屋上にヘリポート。ERや手術部門などと専用エレベーターで直結しています。

F 救急車専用のロータリーには、救急車5台が同時に駐車できるスペースを確保。来院される車と交差しないように配慮しました。

G 駅前に面した広場。周辺の環境と調和した緑の空間が心を癒してくれます。



PLAN CONCEPT

平面計画

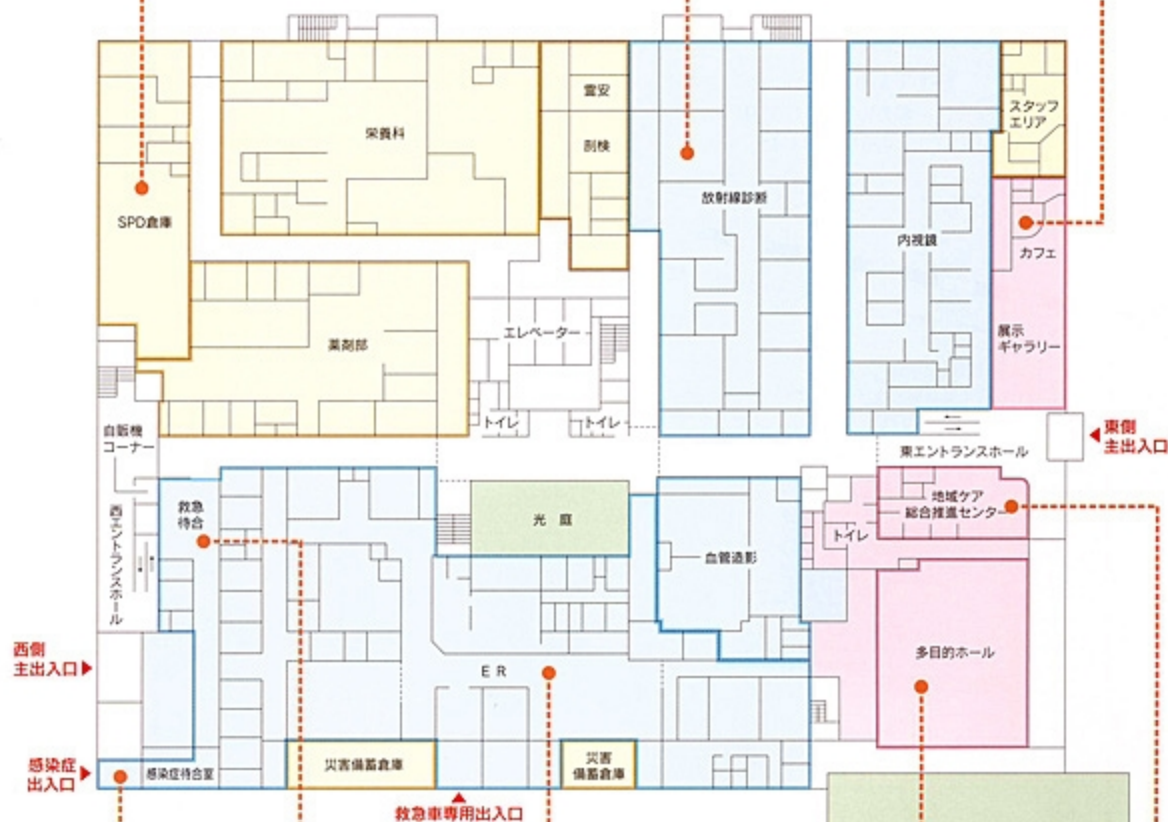
1階

日本国内で最大規模を誇る岡山ERを中心に放射線診断、内視鏡室、血管造影室、薬剤部を設けて、スピーディーな検査・診断・治療ができる体制を整えています。また、駅側には市民のみなさんが気軽に立ち寄れるように、地域ケア総合推進センター、多目的ホールなどの施設を一カ所に集めました。

バックゾーンには医療品の供給・在庫などを集中管理するSPD倉庫を設けました。

放射線診断、内視鏡、血管造影、薬剤部、中央倉庫をERと同じフロアにして機能的に。

ほっと一息ついてリラックスできるカフェを駅側に。



感染症患者専用の出入口、診察室、エレベーターを設けて、感染症対応に配慮。

救急待合室も必要な広さを整え、自力で来られる方にも配慮しています。

1400㎡の広さを持つER。トリアージ室1、診察室6、処置台6、観察台7と設備も充実。DMAT指定医療機関としてER内にDMAT（災害急性期に活動する医療チーム）を組織。

保健・医療・福祉について相談できるフロア。市民のために365日いつでもオープン。

多目的ホール



市民向けの講習会や研修などを催すための多目的ホール（約300人収容）。

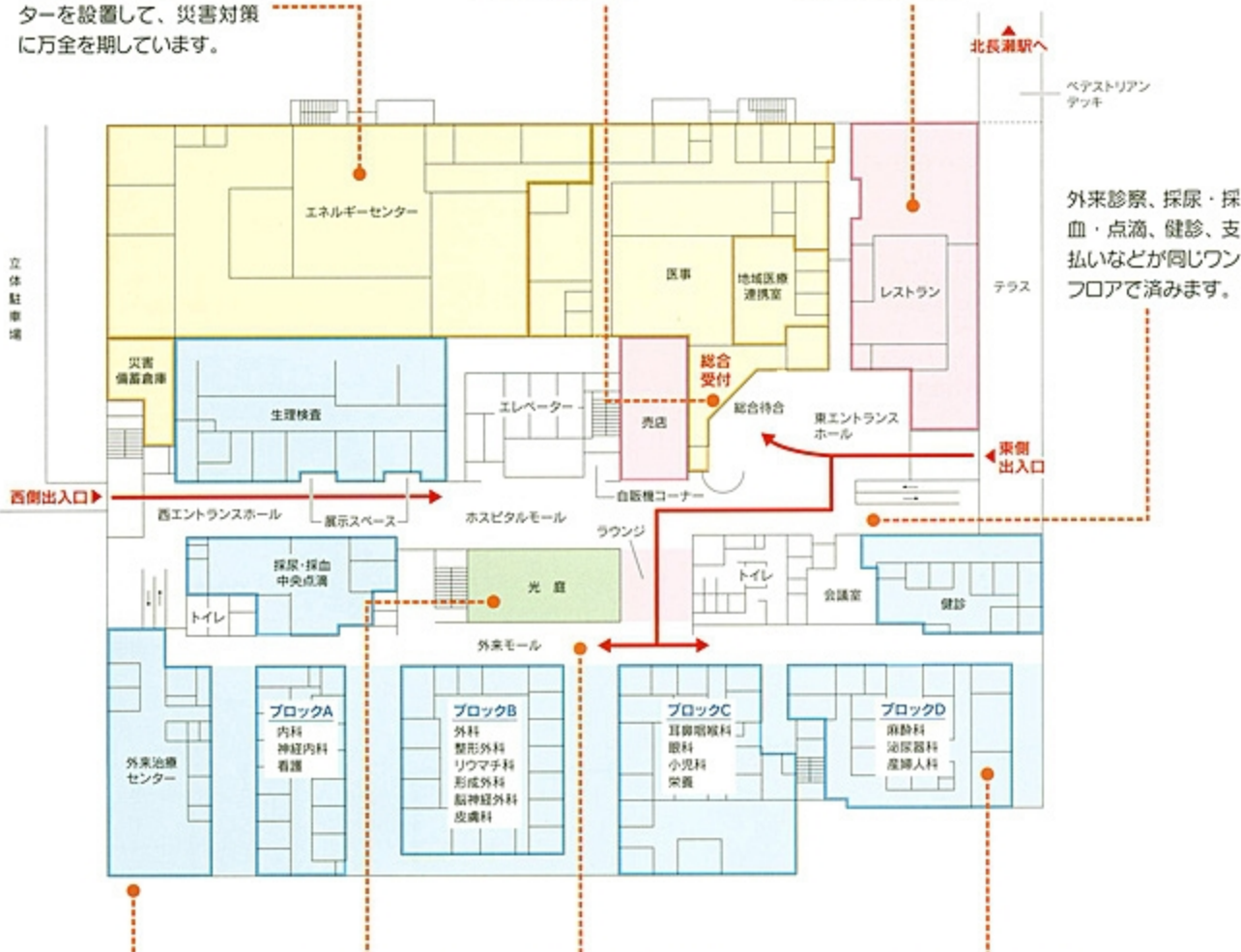
平面計画
2階

病院2階が外来になります。東西出入口を結ぶホスピタルモールを中心に外来、検査、医事部門がワンフロアに。病院の中央には、院内の中心的なシンボル「光庭」が吹き抜け、ガラス張りになった外来フロアは明るく開放的です。東側出入口にはJR北長瀬駅と直結したテラスがあり、西側出入口は立体駐車場の2階と直結しています。

2階と3階にエネルギーセンターを設置して、災害対策に万全を期しています。

総合受付と待合ホールは、東西両方の出入口から見やすい位置にあります。

院内のレストラン。妊婦さん専用の選べる特別メニューもここで用意します。



「免震構造」の採用、非常用発電機の設置、エネルギー源の複数化で安全性を確保。

院内の中心的なシンボルとなる光庭。

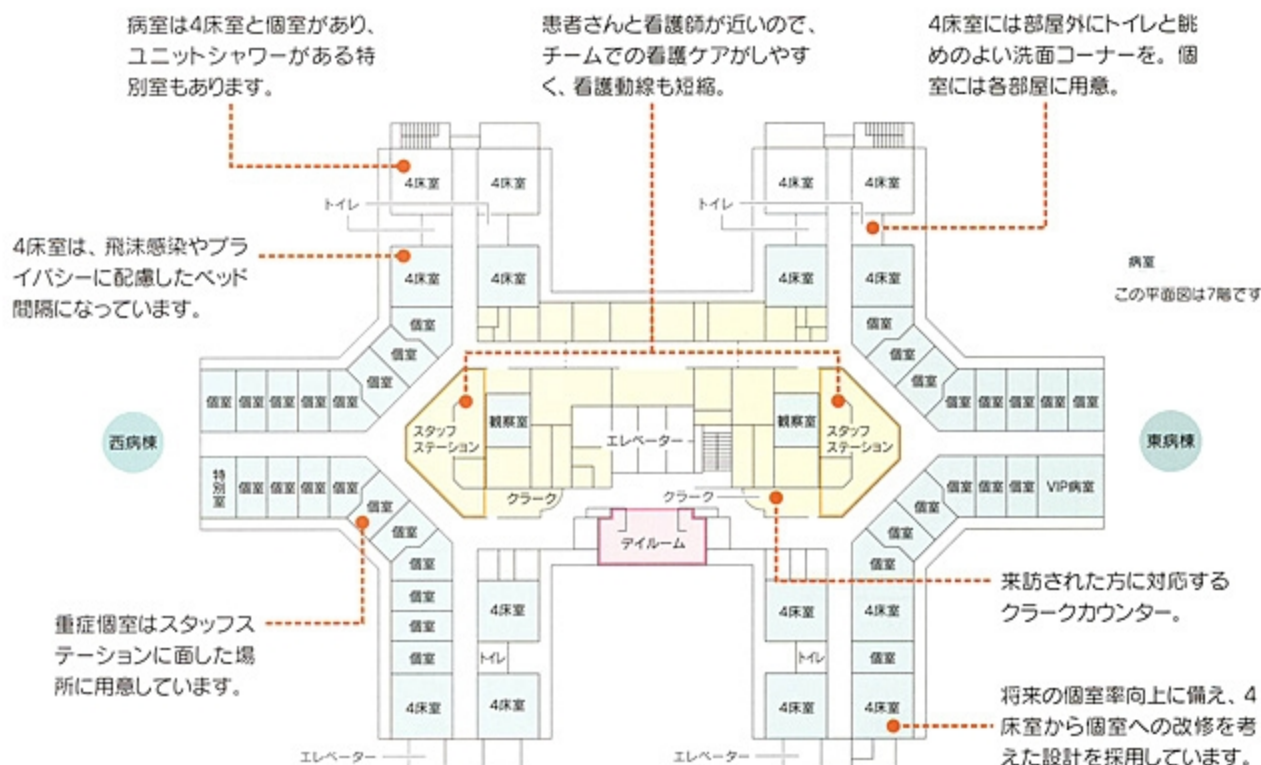
東西を結ぶ外来モール沿いに診療室を設け、わかりやすい院内。

外来はA～Dブロックに分かれています。見晴らしの良い東南角が産婦人科です。



平面計画 病棟 [5~8階]

5階から8階までが病棟です。1フロアに2病棟が入り、病床数は3階の集中治療部門（ICU、SCU、HCU）も含めて全部で病床数400のうち個室は120室あります。「患者さんとの距離感を近くしたい」というスタッフの声を反映し、スタッフステーションから全ての病室を見渡すことができるこの特徴的な構造を採用することになりました。将来の改修に備えて病室などがフレキシブルに変化します。



病室(4床室)



4床室



個室



病棟の階層構成 (予定)

- 8階 西●内科系ユニット 東●血液内科・無菌室(10床)
- 7階 西●外科系ユニット 東●内科系ユニット
- 6階 西●小児科 外科・内科系ユニット 東●産婦人科 外科系ユニット
- 5階 西●結核病棟(4) 感染病棟(4)・内科系ユニット 東●外科系ユニット
- 3階 ●ICU6床・SCU3床・HCU4床

血液内科、産婦人科、小児科、結核感染病室はそれぞれ、無菌室、LDR、プレイルーム、隔離・空調設備など部屋の構造上の特徴があるため病室は固定されています。他は標準仕様であることから基本的に変化対応で運用予定です。開院時までには各科配置の詳細をご報告します。

特 徴

- 6階の産婦人科では、陣痛から分娩まで移動不要のLDRを2部屋用意しました。
- 6階の小児病棟にはプレイルームがあります。
- 5階の結核病室と感染症病室用に、1階のERと直結した感染症者専用エレベーターがあります。

新設医療機器紹介

新市民病院で導入する
主な医療機器をご紹介します。

診療科案内

CT装置

2管球MDCT(192スライス×2) (シーメンス社製 SOMATOM Force)

最新型の192スライスの管球を2個搭載したCTです。超高速撮影が可能となったことで、造影剤も大幅に減量でき、息止め不可能な小児の心臓も鮮明に撮影可能です。さらに2管球を用いて高エネルギーと低エネルギーの同時スキャンにより組織分別や組成解析も可能となりました。大幅な被ばく低減効果と高画質をトレードオフなしに実現する次世代CTです。



128スライスMDCT (シーメンス社製 SOMATOM Definition Edge)

一般診療におけるルーチン検査から心臓、全身外傷まで様々な検査に対応可能なハイスピーク128スライスMDCTです。ガントリ径も広く設計され、高速スキャンにより安全で、迅速な検査ができます。さらに体型や検査目的を考慮し、自動的に線量コントロールが可能で被ばく低減と高画質を両立します。



MRI装置

MAGNETOM Skyra 3T (シーメンス社製)

最先端のMRIテクノロジーとアプリケーションを搭載しています。なかでもMRI検査で問題となる「狭さ」と「大きな音」の改善がなされています。装置の開口径は70cmと広く、奥行きも短いので圧迫感が軽減されています。また最新の静音技術「Quiet Suite」により、高画質を保ち検査時間の延長を抑えつつ従来の70%以上の騒音低減が可能となっています。他にも金属アーチファクト軽減技術など検査部位に応じた多くの技術があり、被験者にやさしい質の高い画像が提供できます。



MAGNETOM Aera 1.5T (シーメンス社製)

磁場強度の違いのみで3Tと同様のアプリケーションを搭載し、救急症例をはじめ24時間体制で稼働します。



血管造影装置

IVR-CT (シーメンス社製 Artis zee TA CT SOMATOM Definition AS)

最新の高度診断モダリティであるIVR-CTシステムを導入しました。これにより、血管造影装置単独では対応困難な症例にも専用CT装置導入による診断能力向上により対応可能となり、肝臓癌の腫瘍塞栓、外傷性出血による緊急カテーテル止血術、下肢血管閉塞症における血流改善術などの多くの治療が可能となります。



パイプライン血管造影システム (シーメンス社製 Artis zee BA Twin)

脳外科領域の血管内治療に最適なパイプライン血管造影システムを導入しました。脳梗塞における血栓回収療法や動脈瘤治療における血管内コイル塞栓術等の高度な治療にも、今以上に安全・迅速な治療を提供出来るようになります。また循環器領域におけるカテーテル検査・治療にも対応しています。



心エコー装置

Philips EPIQ7 (フィリップス社製)

フィリップス社の最上位機種です。従来の機種よりも格段に高画質で解像度もあがっており3次元エコーも可能になっています。同時に経食道エコープローブが導入され、経食道心エコーも可能になりました。また、電子カルテ上の画像ポータルで心エコーの動画が閲覧できるようになり、どこでも端末でも心エコーの画像がみえるようになりました。病棟にも携帯型の心エコー装置 (Philips CX50) が配備され、病棟のエコー診断に大きな力となっています。その他各所に最新のエコー装置を10台以上新しく導入します。



手術室

無影灯、手術台 (マクセ社製)

手術室には、世界一の手術器械メーカーのマクセ社の无影灯、手術台が装備されます。无影灯は高効率で、影がでない最高峰LED照明を採用しました。手術台は耐久性に定評のあるドイツ製で、あらゆる分野に適合します。将来のロボット手術にも対応し、新病院での高度医療を支えます。



无影灯

手術台

診療科

- 内科
- 神経内科
- 心療内科(精神科)
- 外科
- 整形外科
- リウマチ科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- 小児科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 麻酔科
- 病理診断科
- 救急科

11ページ
で紹介

疾患別センター

- 肝疾患センター
- 血液・腫瘍センター
- IVRセンター
- リウマチセンター
- 脳疾患センター
- 救急センター
- 糖尿病センター
- 消化器疾患センター
- 呼吸ケア・サポートセンター
- リハビリテーションセンター

岡山EPAは
10ページ
で紹介

ことわらない救急医療をめざして。 地域の医療機関と連携して患者さんを支えます。

岡山ERは今までの救急医療とどこが違うのですか？

24時間365日、病気の領域や症状の重さにかかわらず、すべての患者さんを受け入れて初期診療を行うのがER(救急治療室)です。ここ数年、岡山市でも人口の高齢化とともに救急車の出動件数が急激に増え、救急における病気の診断や管理が難しくなっています。地域とともに“ことわらない救急”を目指すのが「岡山ER」コンセプトです。実際は救急総合診療科が中心となって各専門診療科と協力して救急センターを構成し、「岡山ER」を実践する形になります。新病院の1階、1400㎡もの広さに、診察用・処置用・観察用の各ブースにベッドを十分に設け、レントゲン検査やCT、MRI、内視鏡室も同じフロアに配置し、救急における待合や治療の質を向上させます。そして災害時医療の役割を担うべくDMAT(災害派遣医療チーム)も組織しています。

救急車は呼びづらいので、車やタクシーで行っても診てもらえますか？

もちろんです。救急車での診療だけでなく、ウォークイン(徒歩での受診)にも重点を置いています。ウォークインの救急患者さんのなかにも、重症の方や緊急性の高い方もいらっしゃいますので、救

急医よりも先にトリアージナース(病気の重症度・緊急性を判断する看護師)が状態を観察し、緊急性の高い患者さんに迅速な対応ができるようにしています(診察の順番が変わることがあることについてはご理解ください)。

どのような先生が診てくれるのですか？

救急専門医・総合内科医が、各専門診療科医と協力することで、患者さんがどんな症状でも「安心」して受診できる救急を目指しています。専門性の高い先進医療大国の岡山において、専門性にとらわれない「総合内科」、「救急医療」こそ今後成長が期待される領域です。「岡山ER」は、救急医療や総合診療に熱意を持った若手医師を集め、将来の「総合内科医」、「救急専門医」を育成する役割も担っています。

症状が落ちついた後は、かかりつけの先生に紹介してもらえますか？

症状が落ち着いた軽症患者さんは、普段の生活管理が大切となるので、地域のかかりつけ医をご紹介します。他院での治療が望ましい場合や三次救命救急センター(岡山大学病院、岡山赤十字病院など)への転院が望ましい場合には、重症化を防ぐための初期対応を行った後に引き継ぎます。市民病院の各専門診療科に入院した際には、他の医療機関との役割分担・連携を行いながら、その後の病気の管理を行います。岡山地域全体で岡山市民の健康の安心に寄与するシステムづくりこそが「岡山ER」のテーマです。

平成27年
5月7日の
開院を目指して
岡山ERは
準備中!

岡山ERは新病院の南側1階にあります。広さは日本最大規模の1400㎡。救急車専用のロータリー(点線部分)も備えています。現在は平成27年5月7日の開院を目指して工事を進めています。



工事の様子(平成26年9月24日現在)

新しい市民病院で
お産をしませんか？
“自然に生まれて
来る力”を応援します。



❀ 無痛分娩は行わず、自然なお産をサポートしているのはなぜですか？

もともと、ママと赤ちゃんには“自然に生まれて来る力”が備わっています。自然分娩が中心の市民病院では、その力を最大限発揮できるようにサポートをしています。無痛分娩を行わないのも、出産の痛みを乗り越えて生んだという母としての自信と満足感が、赤ちゃんへの愛着を深めることに繋がっているからなんです。ママが理想とする自然体のお産を万全の準備でお手伝いします。

❀ 新病院ではフリースタイル出産が選べるそうですね。

できるだけ自然に、安楽に生めるように助産院をイメージした畳のLDR(陣痛室・分娩室・回復室が一体の個室)を用意しています。横向きでも四つん這いでも、転げ回っても大丈夫。自宅のようにリラックスでき、ご家族と一緒にアットホームな雰囲気の中で出産ができます。もちろん分娩台があるLDRも選べます。また、陣痛を和らげるために、LDRでは珍しく湯船を備えた浴室を備えています。

❀ 完全予約制の「助産師外来」について教えてください。

正常経過の方は妊娠22週から40週までの妊婦健診を、助産師が医師と交互に担当します。完全予約制なので待ち時間がありません。新病院では、最新の4D画像胎児超音波を導入するので、赤ちゃんの様子を鮮明なカラー動画で見ただけになります。また、いままでどおり医師の妊婦健診後には経験豊富な助産師にいろんな相談ができます。少しでも不安を取り除いてお産に臨めるように保健指導やバースプラン作成などもしています。産後も赤ちゃんの体重チェックやおっぱいマッサージなどを行っています。



4D画像胎児超音波(右)で見た赤ちゃんの様子(左)

❀ 産後1カ月までなら誰でも利用できる“産後ケア入院”って何ですか？

「授乳や育児のサポートを受けたい」「産後をゆっくり過ごしたい」というママの声に応えるため、赤ちゃんと一緒に入院して助産師からサポートを受けられるサービスです。授乳や沐浴などの育児指導をはじめ、予防接種や乳児健診のプランニング、低料金でアロママッサージなども行っており、今後はベビーマッサージも予定しています。育メンの参加、他院で出産された方の利用も大歓迎です。



❀ もしも胎児や母体に異常があった場合はどうなりますか？

健診時に異常が見つかった場合は、安全を第一に医師の管理のもと助産師が個別指導を行い出産に備えます。また、分娩時は分娩室以外でも医師が常時チェックできるように分娩管理集中システムを導入。出産後は小児科医、整形外科医が必ず診察し、必要に応じて皮膚科医・耳鼻科医も診察にあたります。総合病院ならではの充実した医療体制で、安心安全なお産をサポートします。

ACCESS MAP 新市民病院までのアクセス



JR 山陽本線で岡山駅より北長瀬駅まで約4分

バス 岡山駅より北長瀬駅前まで約15分
 ●岡電バス: 平田・北長瀬駅行き / 東花尻行き / 中庄駅行き
 ●中鉄バス: 北長瀬駅前・中庄駅行き

車 ●岡山駅から約4km、約10分
 ●山陽自動車道岡山ICから約8km、約20分

新住所 岡山市北区北長瀬表町三丁目20番1号



次号 vol.2 は平成26年12月上旬発行予定です

特集 診療科紹介(前編)

●血液・腫瘍センター ●脳疾患センター ●消化器疾患センター
 ●呼吸ケア・サポートセンター ●リハビリセンター ●看護部 (予定)

新市民病院で 皆様に美味しいお食事をご提供いたします。



ホスピタリティ・マインド
あふれた食事空間を目指して

ホスピタリティとは、人に対して表現される「手厚いおもてなし」や「温かい思いやり」の事です。
 その本質にある心を表したものが「ホスピタリティ・マインド」であり、
 日本語に直せば、誰もが持っている「人の優しさ」や「ふれあいの心」の事です。
 われわれは、すべての患者様・お客様・スタッフの皆様にこの気持ちを持ち、
 喜んでいただけるよう精一杯の努力を行い、
 気持ちのよい雰囲気・空間の提供をすることを大切に、一日一日を取り組んで参ります。



職員食堂

ESSEN

株式会社エッセン

〒700-0867 岡山市北区岡町13番16号 TEL 086-237-7800 FAX 086-237-8822 <http://essens.jp/index.html>